
内視鏡手術の新たな展開

斉藤奈津穂、奥田喜代司、穀内香奈

(北摂総合病院 産婦人科)

目的：

近年、婦人科では低侵襲を目指した内視鏡手術である腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術が普及してきた。また、最近の光学機器や手術器具の目覚ましい発達により低侵襲を目指した細腹腔鏡下手術などのように内視鏡手術の新たな展開を迎えている。今回、腹腔鏡と子宮鏡による同時手術および、細径子宮鏡（5mm 硬性鏡）を導入し無麻酔下による子宮鏡下手術を試みたので報告する。

方法：

当院で2013年1月～2015年3月に腹腔鏡下手術を行った470例のうち22例で同時に子宮鏡下手術を行った。この22例のうち13例は粘膜下筋腫、14例は子宮内膜ポリープで子宮鏡下手術を行い、腹腔鏡下手術は子宮筋腫核出術（10例）が多く、卵巣嚢腫摘出術などがあった。腹腔鏡下手術群（単独手術群）と腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術を同時に行った群（同時手術群）の出血量・手術時間・筋腫重量について比較検討した。また、2014年11月～2015年3月に、5mm 硬性鏡を用いて無麻酔科に子宮鏡下内膜ポリープ切除術（細径法）を施行した5例と、10mm 硬性鏡を用いた子宮鏡下内膜ポリープ切除術（従来法）21例とを比較検討した。

結果：

単独手術群と同時手術群の、それぞれの出血量は 187 ± 310 ml、 102 ± 137 ml、手術時間は 165 ± 46 分、 192 ± 56 分、筋腫重量 159.9 ± 137.8 g、 114.9 ± 113.4 gであり、各項目において、両群間で有意差は認めなかった。

子宮鏡下内膜ポリープ切除術における細径法と従来法の比較では、手術時間は 21.5 ± 7.1 分、 21.6 ± 8.8 分、出血量は両群とも少量であり、有意差は認めなかった。従来法では麻酔時間 68.6 ± 10.9 分に対して細径法では無麻酔下での日帰り手術が可能であった。

結論：

腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術の同時手術は安全で有用であることが示され、細径子宮鏡による子宮鏡下内膜ポリープ切除術は低侵襲であり、日帰り手術が可能であった。